

2019年2月7日（木）14:00～  
LNG セミナー（東京：六本木アカデミーヒルズ）  
宿利会長 冒頭挨拶

皆様、こんにちは。一般財団法人 運輸総合研究所 会長の宿利正史です。本日は、当研究所主催の「船舶の代替燃料としての LNG の可能性に関する国際セミナー」に、国土交通省の水嶋海事局長をはじめ多数の皆様にご出席いただき、誠にありがとうございます。

本日のセミナーは、地球環境問題が深刻化する中、船舶分野においてクリーンなエネルギーとして注目されている液化天然ガス（LNG）を取り上げ、船舶燃料の LNG 化に関する現状や今後の取り組むべき方策について、国内外の当事者・有識者の皆様に、講演とパネルディスカッションを行っていただくものです。当運輸総合研究所においては、昨年、研究会を設置して、船舶の代替燃料としての LNG の可能性に関する調査研究を行いました。その成果についても、ご報告させていただきます。

船舶の分野では、国際海事機関（IMO）における、2020 年からの SOx 規制の強化に加えて、昨年 4 月に、Green House Gas ゼロエミッションを目指す「GHG 削減戦略」が採択されたことにより、船舶燃料として使用されている重油に代わり、LNG が有力な選択肢の一つとして期待されております。

船舶燃料の LNG 化については、欧州では、先行的な取組により LNG 燃料船の導入や LNG バンカリング拠点の整備が進展しています。また、世界最大の重油燃料の供給地であるシンガポールでは、世界の LNG バンカリング拠点のハブを目指して、船舶燃料の LNG 化に向けた取組が進められています。

一方、我が国に目を転じますと、LNG 燃料船の船価が従来の船舶より高いことや、LNG の調達価格が国際的に高く、燃料費としては重油に対して経済性に乏しいことなどの課題があるため、現在、LNG 燃料船は 1 隻しか就航しておらず、また、LNG バンカリング拠点の整備も事業の緒に就いたばかりであり、欧州に比べて、船舶燃料の LNG 化が進んでいない状況です。しかしながら、今般の IMO における環境規制の強化に加えて、米国のシェールガス由来の LNG 供給の本格化による LNG の価格競争力の強化が期待されることから、環境に優しい船舶燃料の LNG 化の機運が高まりつつあり、今後更に取組を加速していく必要があります。

本日のセミナーでは、このような状況を踏まえ、船舶燃料の LNG 化に向けて、現在どのような取組が行われており、また、我が国が今後どのように取り組むべきかについて、国内外の当事者・有識者の皆様による講演と議論を通じて、本日お集りの皆様と共に船舶燃料の LNG 化に関する最新の情報と課題の共有を図りたいと考えておりますので、是非ご期待いただきたいと思います。

なお、運輸総合研究所の活動は、長きにわたり日本財団の財政支援を受けて行っており、本セミナーもその支援を受けて実施するものであることを申し添えます。

最後に、本日のセミナーがご出席いただいた皆様方にとりまして有益なものとなることを期待し、私の冒頭の挨拶といたします。

(以上)